



雑貨や菓子などが並ぶ販売会
＝静岡市葵区の静岡伊勢丹

雑貨や菓子「福産品知って」

13日まで 静岡伊勢丹で販売会

県内の障害福祉事業所が生産する「ふじのくに福産品」の販売会が8日、静岡市葵区の静岡伊勢丹で始まった。県内6事業所が、雑貨や菓子などを販売している。13日まで。

昨年にも参加したという「ラポール安倍川」(同区)は利用者が裂き織りの手法で製作したバッグや、クマのキーホルダーなどを販売。初参加の「げんきむら」(藤枝市)はハンカチや手ぬぐい、人気のラスクをそろえた。手ぬぐいにはメジロと梅の花など春らしい柄が刺しゅうされており、利

用者が絵柄の発案や製作を行った。同事業所の伊藤美津子さん(56)は「利用者の収入を上げるためにも、まずは商品や活動のことを知ってもらえれば」と話した。

(令和8年4月9日・中日新聞)



障害がある人が作った商品が並ぶ会場＝静岡市葵区の静岡伊勢丹で

心込めた福産品 いかが

静岡伊勢丹 13日まで販売

障害福祉サービス事業所で働く障害のある人が作った製品(福産品)を販売する「福産品期間限定販売」が8日、静岡伊勢丹(静岡市葵区)8階の大催事場で始まった。県内の6事業所が縫製品や焼き菓子などを出品する。13日まで。

初出店のげんきむら(藤枝市)はラスクや刺しゅうハンカチを販売する。障害のある人が、ハリネズミや犬、ビールのジョッキといったさまざまな絵柄の描画から刺しゅう、包装までを手がけた。

ラポール安倍川(静岡市葵区)は、古い着物を裂いて機織りし、バッグやクマのキーホルダーに仕立てた。指導員の稲葉優子さん(58)は「障害のある人が一点一点、心を込めて織った製品を売っているの、ぜひ来てほしい」と呼びかけた。

福産品の購入は、各事業所で働く人の収入向上につながる。静岡伊勢丹では認定NPO法人オールしずおかベストコミュニティが毎年、同店で催される「駿府各流大茶会」と同じ日程で開いている。営業時間は午前10時～午後4時半。(三宅桃花)

(令和8年5月27日・静岡新聞)

福産品の弁当、菓子ずらり 沼津 静岡ガス東部支社に福祉事業所出店



「福産品」の弁当や菓子などが人気を集めた販売会
＝沼津市の静岡ガス東部支社

沼津市岡一色の静岡ガス東部支社で21日、県内の障害福祉事業所の商品「福産品」の販売会が開かれた。昼休憩に合わせて多くの社員が訪れ、弁当や菓子を買い求めた。

県内企業と福祉事業所をつなぐ認定NPO法人「オールしずおかベストコミュニティ」が進める取り組み。今回は三島市のNPO法人が運営する就労継続支援事業所「ワンルーチェ」と、同市社会福祉協議会の指定生活介護事業所「えがお」が出店。利用者が育てた野菜を使った弁当やバーガー、パウンドケーキ、クッキーなどが人気を集めた。

同社は2023年から県内複数の事業所で販売会を実施し、今回は8回目。東部総務チームリーダーの小野田昌弘さんは「販売会は毎回盛況。社員が地元の福祉事業所を知るきっかけにもなっている」と話した。

(令和8年5月28日・静岡新聞)

「福産品」販売に列

静岡ガス支社 パンなど人気 駿河区



「福産品」が並んだ販売会
＝静岡市駿河区の静岡ガス静岡支社

静岡市駿河区の静岡ガス静岡支社で26日、障害のある人が手がけた商品「福産品」の販売会が開かれた。メロンパンやわらび餅など食品約14種類、200点が並び、昼休み中の多くの社員が列をなした。

県内企業と福祉事業所をつなげるNPO法人「オールしずおかベストコミュニティ」が参加を呼びかけ、市内の就労継続支援B型事業所「ボンド」(清水区)と「カラフル西脇」(駿河区)が出店した。静岡ガスでの販売会は今回で9回目。7月にも静岡ガス本社で開催する予定。

販売開始から30分ほどで一部商品は完売した。カラフル西脇の利用者でわらび餅などを販売した秋山直大さん(39)は「たくさん売れて楽しかった。今後も販売会に参加したい」と意欲を示した。

(令和8年5月29日・静岡新聞)

昼休憩に「福産品」いかが



「福産品」のパンを販売する利用者ら
＝富士市の静岡ガス富士支社

静岡ガス富士支社で福祉事業所販売

富士市の静岡ガス富士支社は26日、障害のある人が手がけた商品「福産品」の販売会を同社で開いた。約30種類のパンや焼き菓子が並び、昼休憩中の社員が次々に買い求めた。

いずれも福祉事業所の「ふれあいショップあゆみ」(富士市)と「クリエート太陽」(沼津市)が出店した。商品を手作りした利用者が売り子も務め、「いらっしやいませ」「カレーパンがおすすめですよ」と元気に声をかけた。

静岡ガスの地域貢献活動の一環で、富士支社での開催は3回目。県内の福祉事業所と地元企業をつなぐNPO法人「オールしずおかベストコミュニティ」の協力を得て開催した。

(令和8年6月9日・静岡新聞)

「ヘルプマーク」理解へ講座 葵区のNPO

NPO法人オールしずおかベストコミュニティ(静岡市葵区)は5日、課題研究事業の一環で福祉を学ぶ静岡商業高3年生20人を対象に、手助けや配慮を必要とする人のサイン「ヘルプマーク」を学ぶ出前講座を同区の障害者働く幸せ創出センターで開いた。

同校生徒に対する講座は5回目。講師を務めた同法人の渡辺佐妃子さんが、ヘルプマ

高校生適切な対応学ぶ



ヘルプマークを手取る生徒
＝静岡市葵区の障害者働く幸せ創出センター

ークの意味や所持者への適切な対応を説明した。配慮が必要な状況や具体的な声かけの方法を紹介し「ヘルプマークを持つ人を見かけた時は、まず見守ることも配慮の一つ。困っていたら声をかけて」と呼びかけた。

通学バスでヘルプマークを見かけたことがあるという押尾愛那さん(18)は「これまでは見守るだけでいいの不安だったが、安心した。何かあれば力になりたい」と笑顔を見せた。

(令和8年6月18日・静岡新聞)

障害ある人向けに電気教室 焼津 たこ足配線の危険性など学ぶ



電池の働きを学ぶために体験したフラットを点灯させる作業＝焼津市

中部電気保安協会は17日、障害を抱える人向けの「電気教室」を焼津市の社会福祉法人嬰育会の緑通作業所で開いた。同協会の担当者が装置による体験を交えつつ、電気の正しい使い方や感電、電気火災を防ぐための知識を伝えた。

利用者17人は電池の正しい使い方の解説を受け、ポケットライトに電池を取り付けて点灯させる作業をした。感電体感器を使い、微弱な電流による感電も体験した。電源コードを踏んだらたこ足配線にしたりすることによる、発火の危険性も映像で学んだ。

同協会とNPO法人オールしずおかベストコミュニティが協力して開催した。同協会静岡支店の平野一太郎さんは「ご家庭で電気を安全に使ってもらうため」と話した。

(令和8年7月24日・静岡新聞)

ヘルプマーク 理解深めて

認定NPO法人オールしずおかベストコミュニティ(静岡市葵区)は21日、外見では分りにくい障害や病気がある人が携行する「ヘルプマーク」に関する出前講座を同市駿河区の県男女共同参画センターあざれあで開いた。

クラーク記念国際高静岡キャンパス(同区)の生徒約90人を対象とし、通学で公共交通機関の利用が多い若者から知識や理解を周囲に広めてもらおうと企画した。

講師を務めた同NPOの渡辺佐妃子さんは、ヘルプマークの意味や見かけたときに取るべき行動を説明し「必要な援助や配慮は人によって

駿河区 高校生へ講座



ヘルプマークについて説明する渡辺さん＝静岡市駿河区の県男女共同参画センターあざれあ

異なる。まずはマークの意味を理解し、見守ることから始めて」と呼びかけた。2年の石田修也さん(17)は「正しい知識が得られ、(ヘルプマークの)解像度が高まってよかった。見かけたら適切に動きたい」と話した。